



日本証券業協会
Japan Securities Dealers

資料 3

とう し
10/4は
証券投資の日



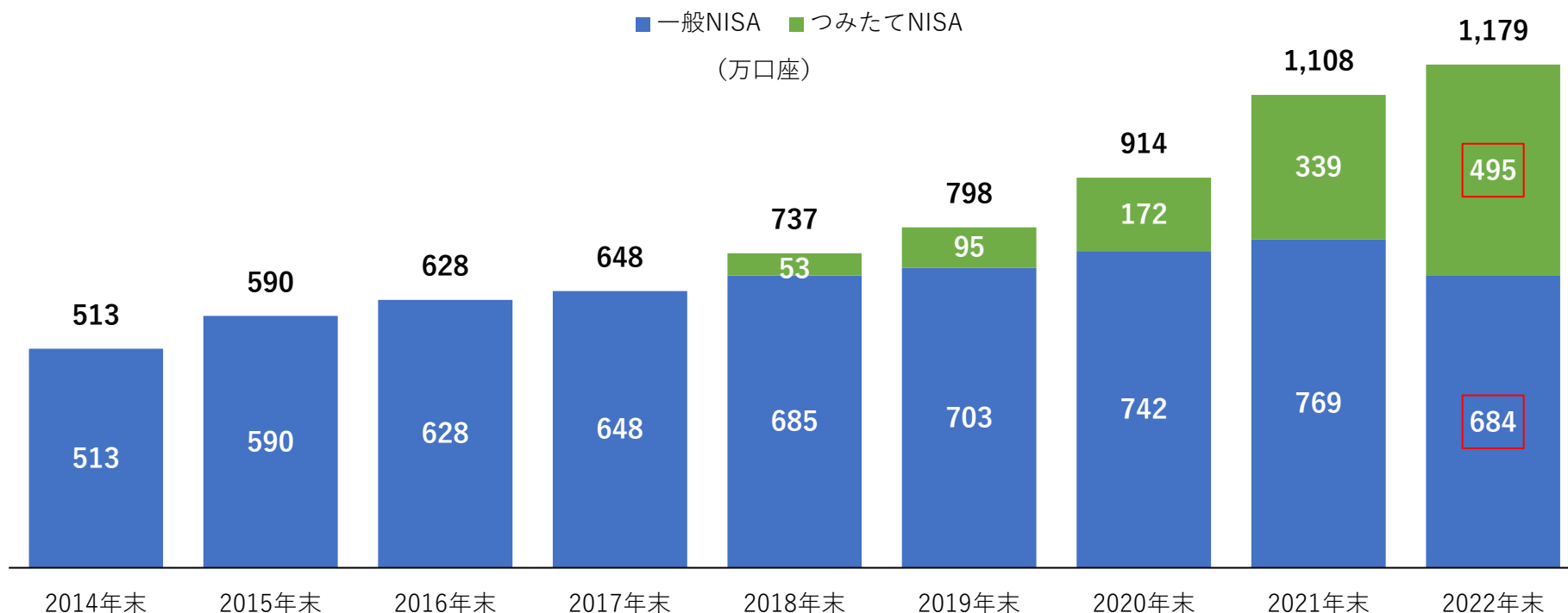
NISA口座開設・利用状況調査結果 (2022年12月31日現在) について

日本証券業協会

1. NISA総口座数の推移 【全証券会社対象】

- 2022年末の証券会社のNISA総口座数は1,179万口座であり、2021年末と比較して6.4%増加した。
- 同月末のつみたてNISA口座数は495万口座であり、2021年末の339万口座から46.2%増加した。
- 同月末の一般NISA口座数は684万口座であった。番号未告知者の残高のない勘定未設定口座が2022年1月1日をもって税法に従い廃止されたため、2021年末の769万口座から11.1%減少したが、2022年の間に28万口座以上が新規に開設されている。

証券会社におけるNISA口座数の推移

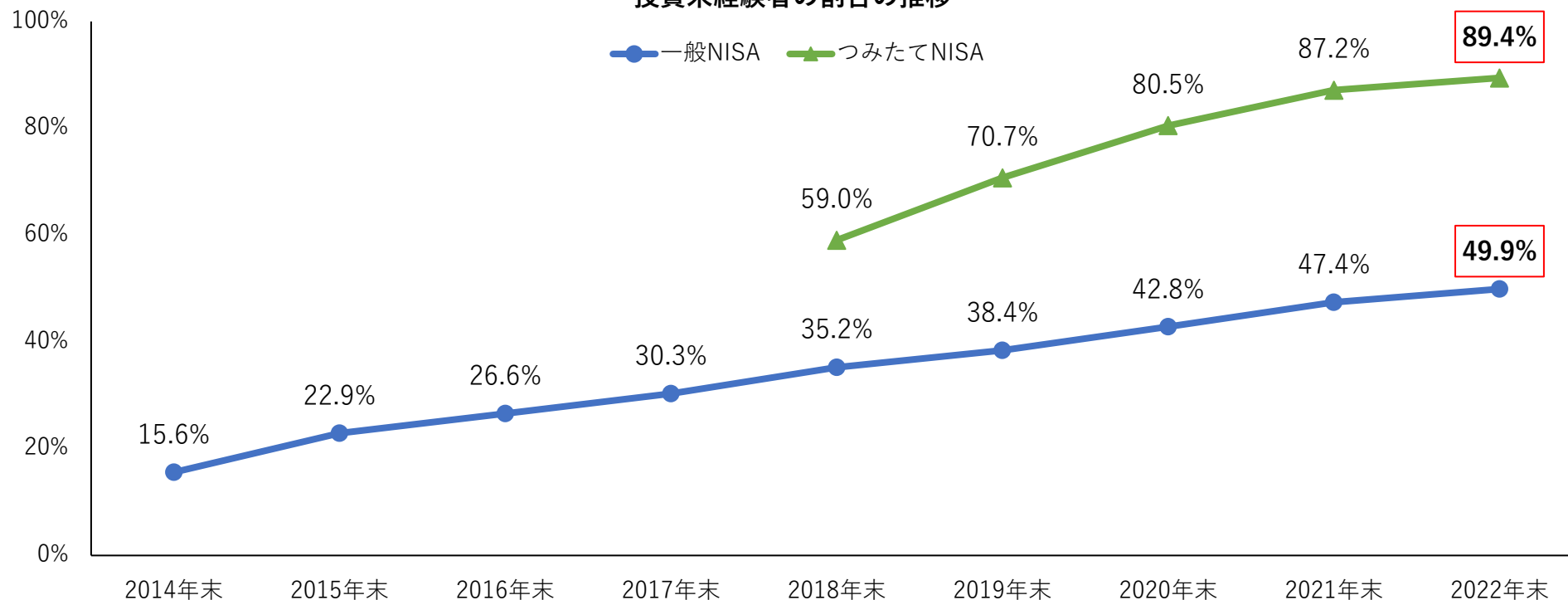


- ※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総数と内訳が一致しない場合がある。
※ 増減割合は実数値を用いて算出しているため、端数処理されたグラフ中の数字を用いた計算結果とは合わない場合がある。
※ 番号未告知者の勘定未設定口座が2022年1月1日をもって廃止されたことにより、2022年の一般NISA口座数が一時的に減少している。

2. 投資未経験者の割合 【全証券会社対象】

- 2022年末のつみたてNISA口座開設者における投資未経験者の割合は89.4%であり、2021年末の87.2%と比較して、2.2ポイント増加した。
- 2022年末の一般NISA口座開設者における投資未経験者の割合は49.9%であり、2021年末の47.4%と比較して、2.5ポイント増加した。

投資未経験者の割合の推移



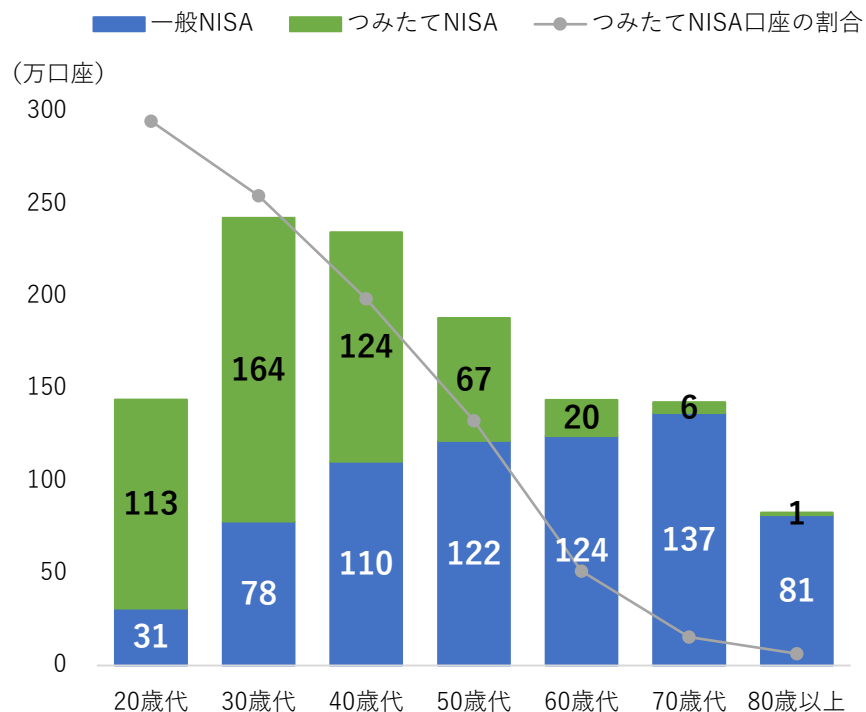
※ つみたてNISAの「投資未経験者」は、報告のあった証券会社において2017年10月1日以降に証券総合口座を開設した者と、一般NISAの「投資未経験者」は、報告のあった証券会社において2013年4月1日以降に証券総合口座を開設した者としている。また、それぞれの割合は勘定設定口座数をベースに計算している。

3. NISA口座数の年代別分布 【全証券会社対象】

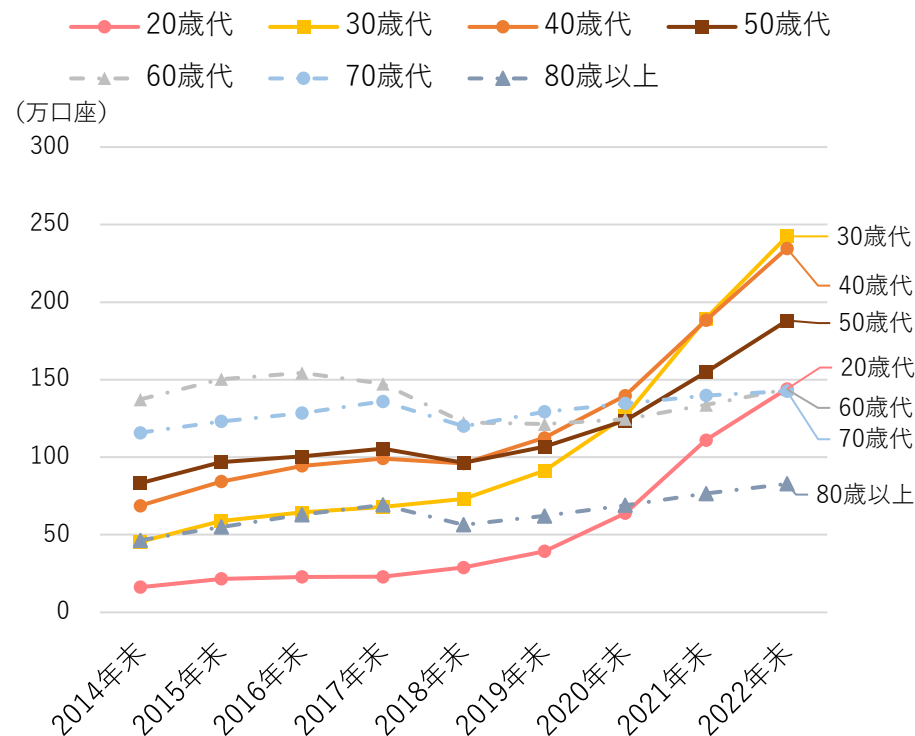
- 2022年末時点の年代別NISA（一般・つみたて）口座数は、特に30歳代（242万口座）と40歳代（235万口座）で多かった。
- NISA口座数のうち、つみたてNISA口座数が占める割合は若年層ほど大きい傾向にある。
- 年代別NISA（一般・つみたて）口座数は、20歳代～50歳代を中心に増加傾向にある。

年代別NISA（一般・つみたて）口座数

（2022年末時点）



年代別NISA（一般・つみたて）口座数の推移



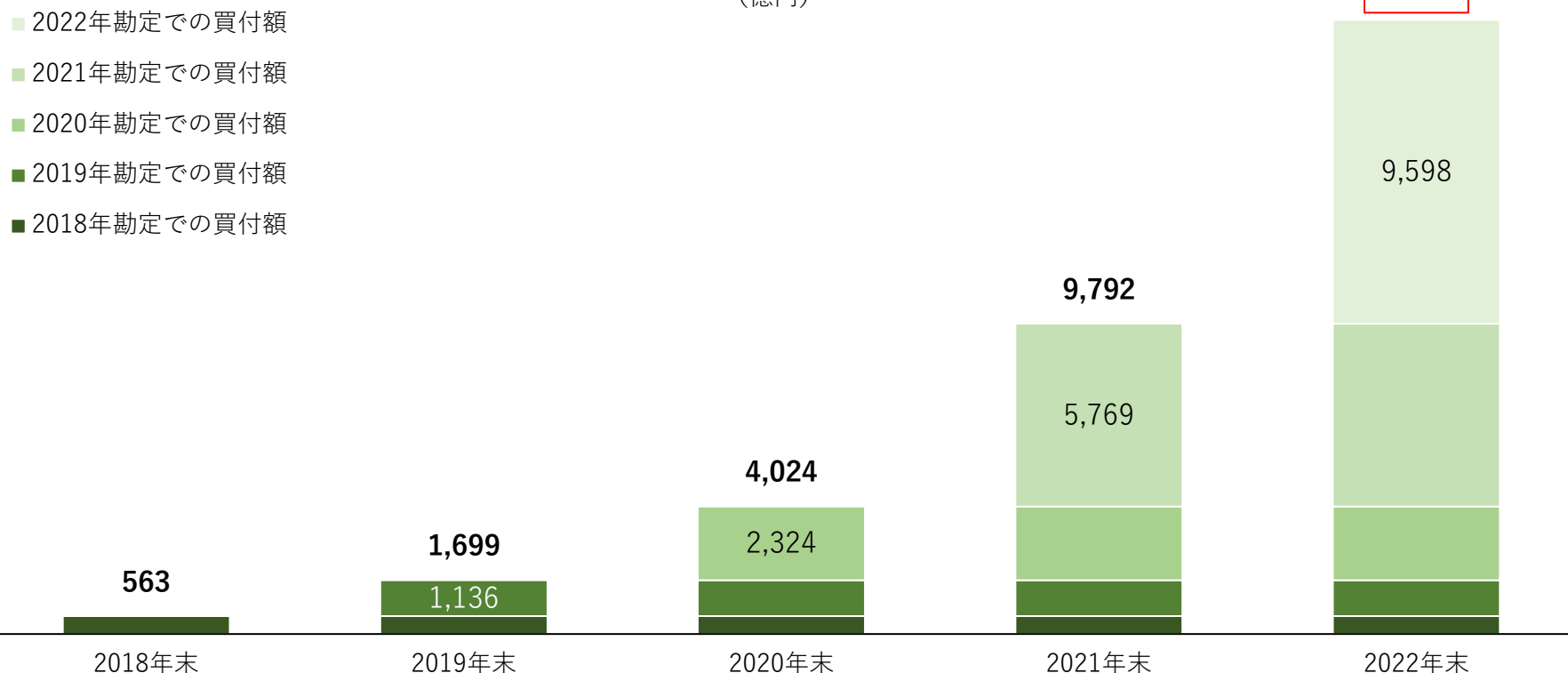
※ 各口座数は勘定設定口座数をベースとしているため、各年代の合計が総口座数と一致しない場合がある。

4. つみたてNISA口座での買付額の推移 【全証券会社対象】

- 2022年勘定におけるつみたてNISA口座での買付額は2022年末時点で9,598億円であった。
- 累計買付額は1兆9,390億円であり、2021年末と比較して、98.0%増加した。

証券会社のつみたてNISA口座における買付額の推移

(億円)



※ 各年勘定での買付額は、前年末までの累計買付額を引くことで求められる。

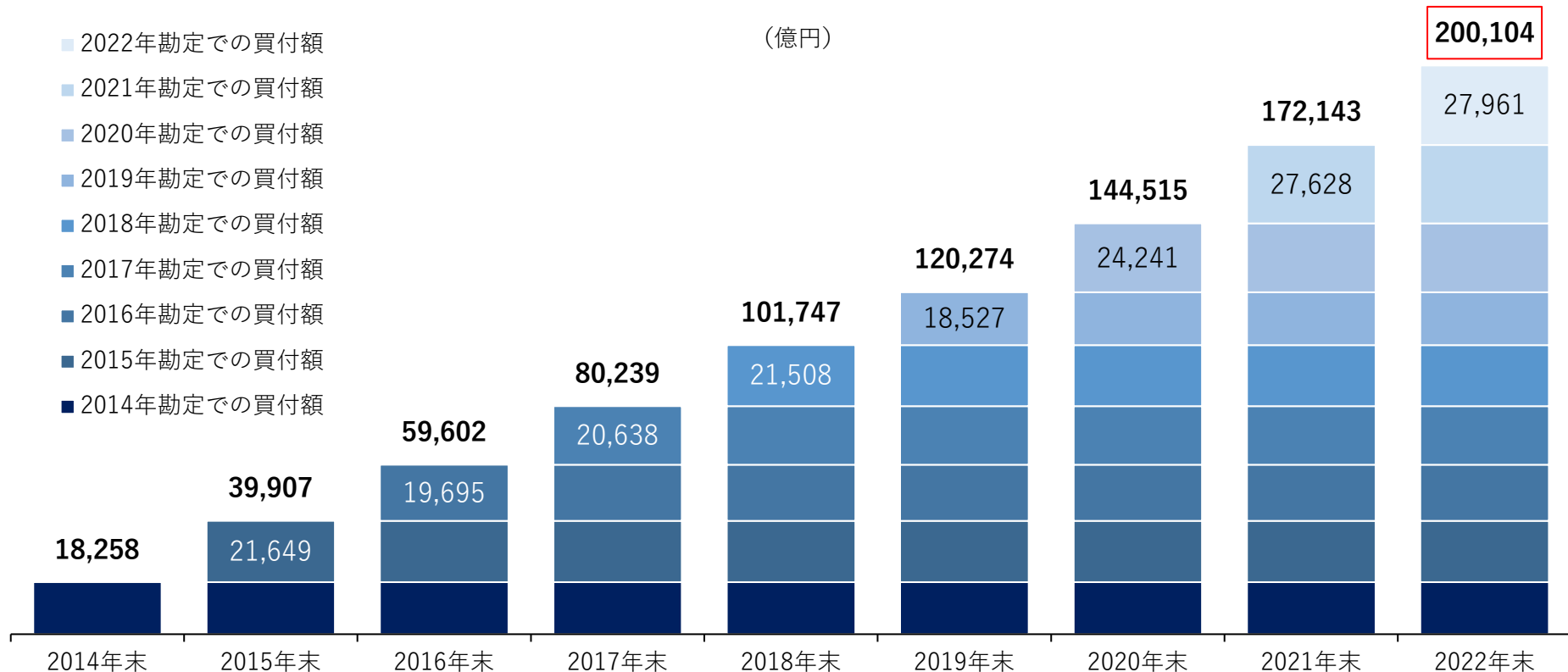
※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。

※ 増減割合は実数値を用いて算出しているため、端数処理されたグラフ中の数字を用いた計算結果とは合わない場合がある。

5. 一般NISA口座での買付額の推移 【全証券会社対象】

- 2022年勘定における一般NISA口座での買付額は、2022年末時点で2兆7,961億円であった。
- 累計買付額は20兆104億円であり、2021年末と比較して、16.2%増加した。

証券会社の一般NISA口座における買付額の推移



- ※ 各年勘定での買付額は、前年末までの累計買付額を引くことで求められる。
- ※ 2019年3月末時点の調査以降、買付額にはロールオーバーによる受入額を含めている。
- ※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。
- ※ 増減割合は実数値を用いて算出しているため、端数処理されたグラフ中の数字を用いた計算結果とは合わない場合がある。

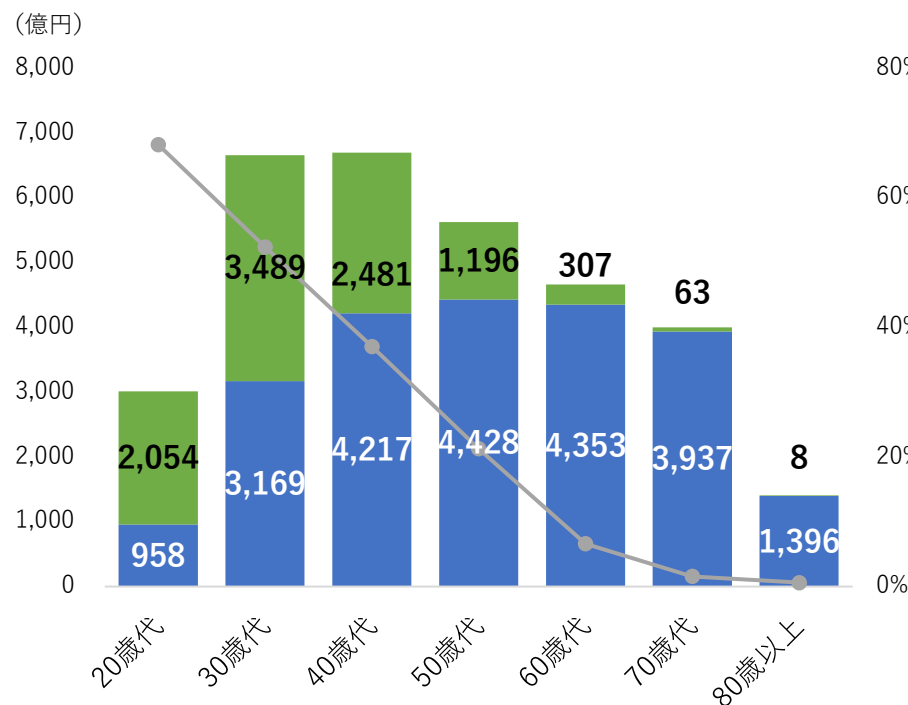
6. NISA新規買付額の年代別分布 【全証券会社対象】

- 2022年勘定における年代別NISA（一般・つみたて）新規買付額は、特に30歳代（6,658億円）と40歳代（6,698億円）で大きかった。
- 新規買付額のうち、つみたてNISAによる買付額が占める割合は若年層ほど大きい傾向にある。
- NISA（一般・つみたて）新規買付額は、20代～50代において増加傾向にある。

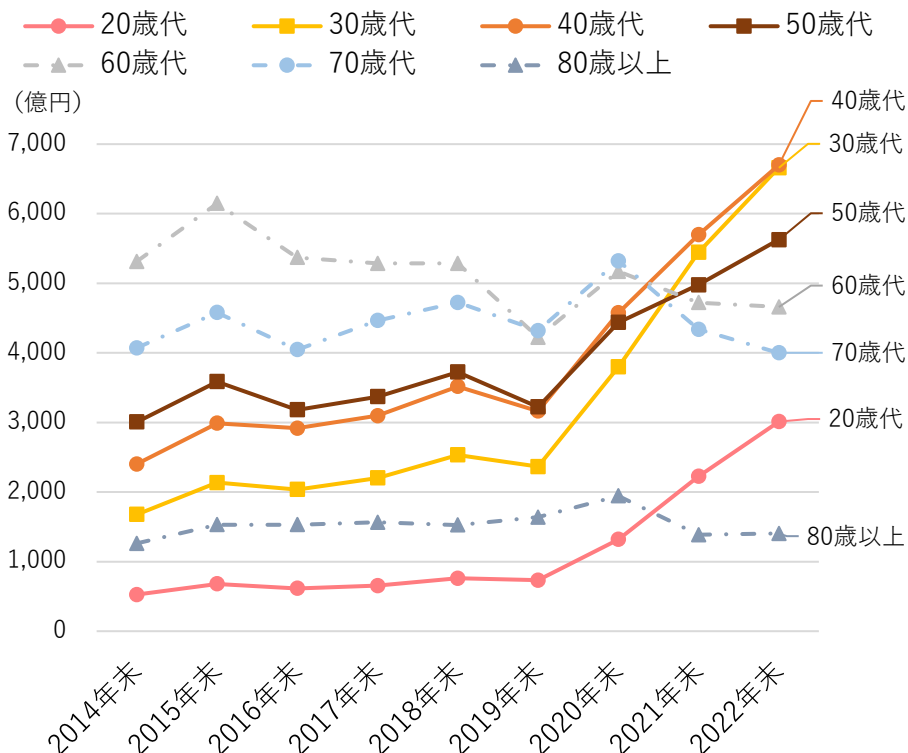
年代別NISA（一般・つみたて）新規買付額

（2022年末時点）

■ 一般NISA ■ つみたてNISA ● つみたてNISAが占める割合



年代別NISA（一般・つみたて）新規買付額の推移



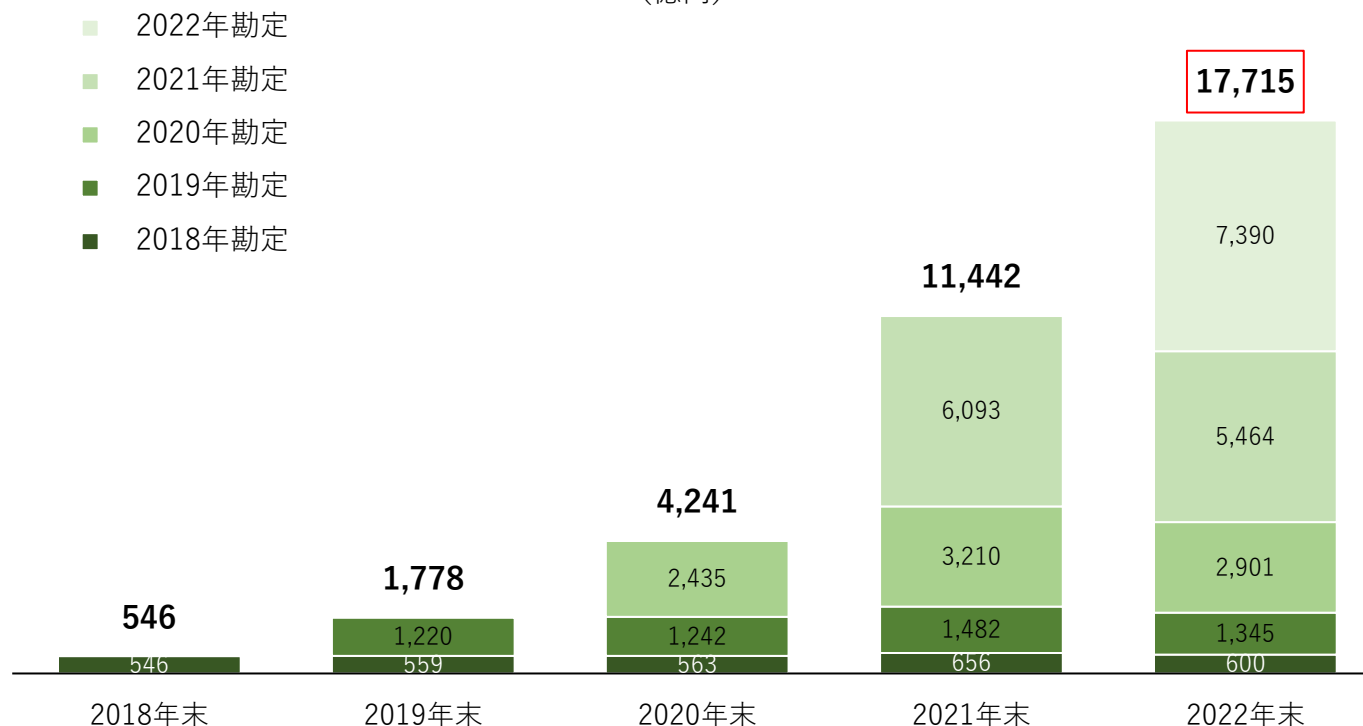
※ 新規買付額にはロールオーバーによる受入額（2022年勘定分：5,504億円）を含まないため、各年代の合計が買付額と一致しない場合がある。

7. つみたてNISA口座残高の推移 【全証券会社対象】

- 2022年末における証券会社のつみたてNISA口座の残高は、1兆7,715億円であった。

証券会社のつみたてNISA口座残高の推移

(億円)



※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。

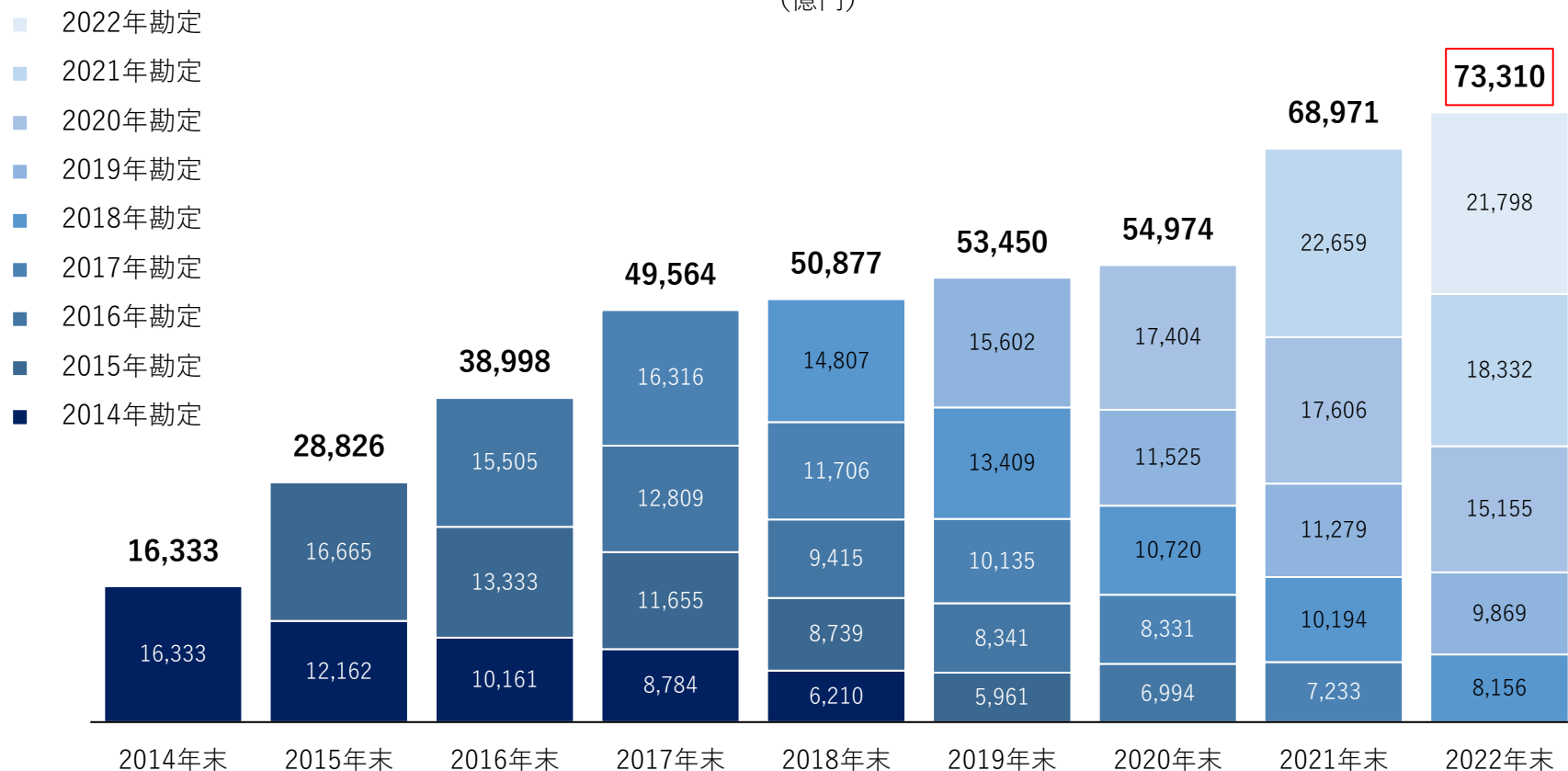
※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。

8. 一般NISA口座残高の推移 【全証券会社対象】

- 2022年末時点における証券会社の一般NISA口座の残高は、7兆3,310億円であった。

証券会社の一般NISA口座残高の推移

(億円)



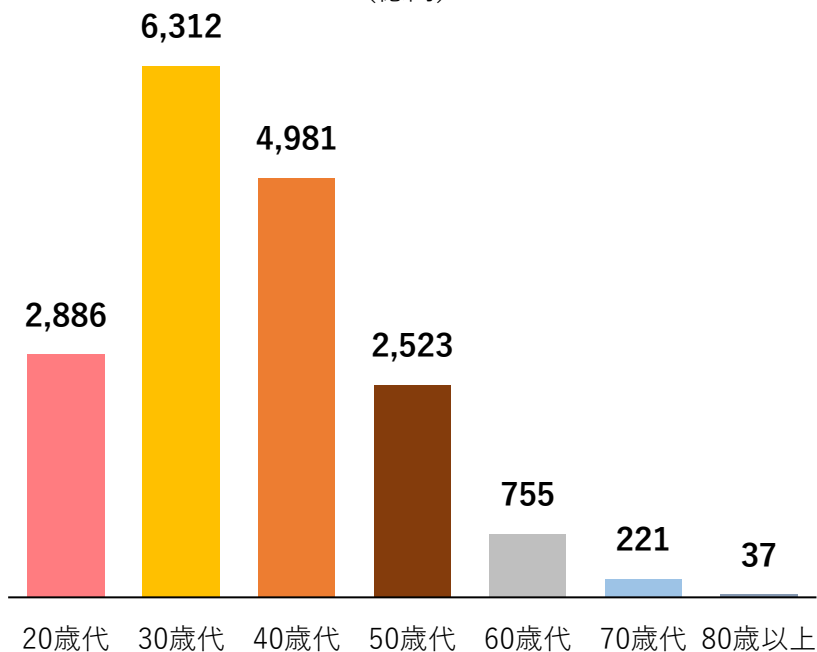
- ※ 2014年、2015年、2016年、2017年及び2018年勘定の非課税保有期間はそれぞれ2018年末、2019年末、2020年末、2021年末及び2022年末で終了している。
- ※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。
- ※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。

9. NISA口座の年代別残高 【全証券会社対象】

- 2022年末における証券会社のつみたてNISA口座の残高は、特に30歳代（6,312億円）と40歳代（4,981億円）が多かった。
- 2022年末における証券会社の一般NISA口座の残高は、特に70歳代（1兆6,465億円）と60歳代（1兆5,309億円）が多かった。

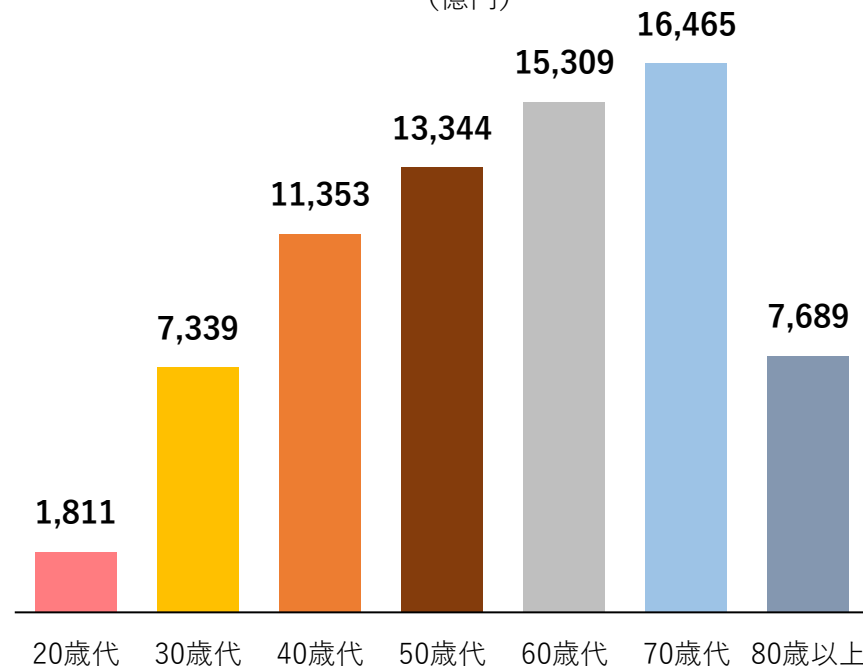
証券会社のつみたてNISA口座の年代別残高
(2022年末時点)

(億円)



証券会社の一般NISA口座の年代別残高
(2022年末時点)

(億円)

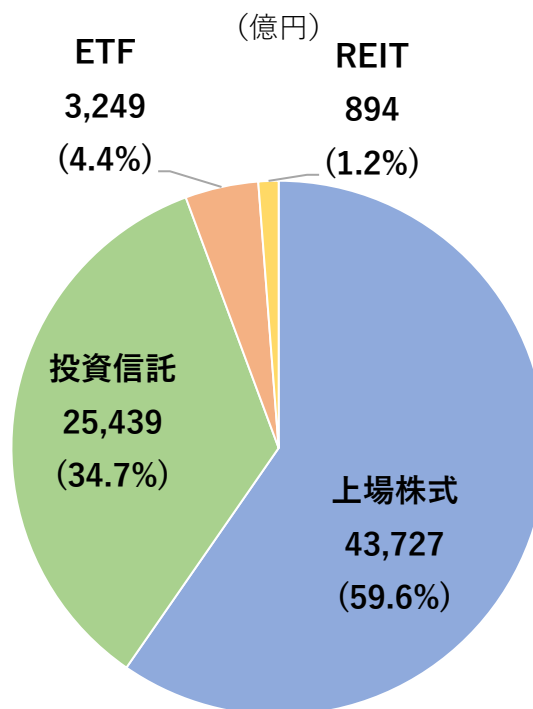


※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。
※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。

10. 一般NISA口座残高の内訳 【全証券会社対象】

- 2022年末における証券会社の一般NISA口座の商品別残高は、上場株式が4兆3,727億円で全体の59.6%を占めた。

証券会社の一般NISA口座の商品別残高
(2022年末時点)



※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。

※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association



ジュニアNISA口座開設・利用状況調査結果 (2022年12月31日現在) について

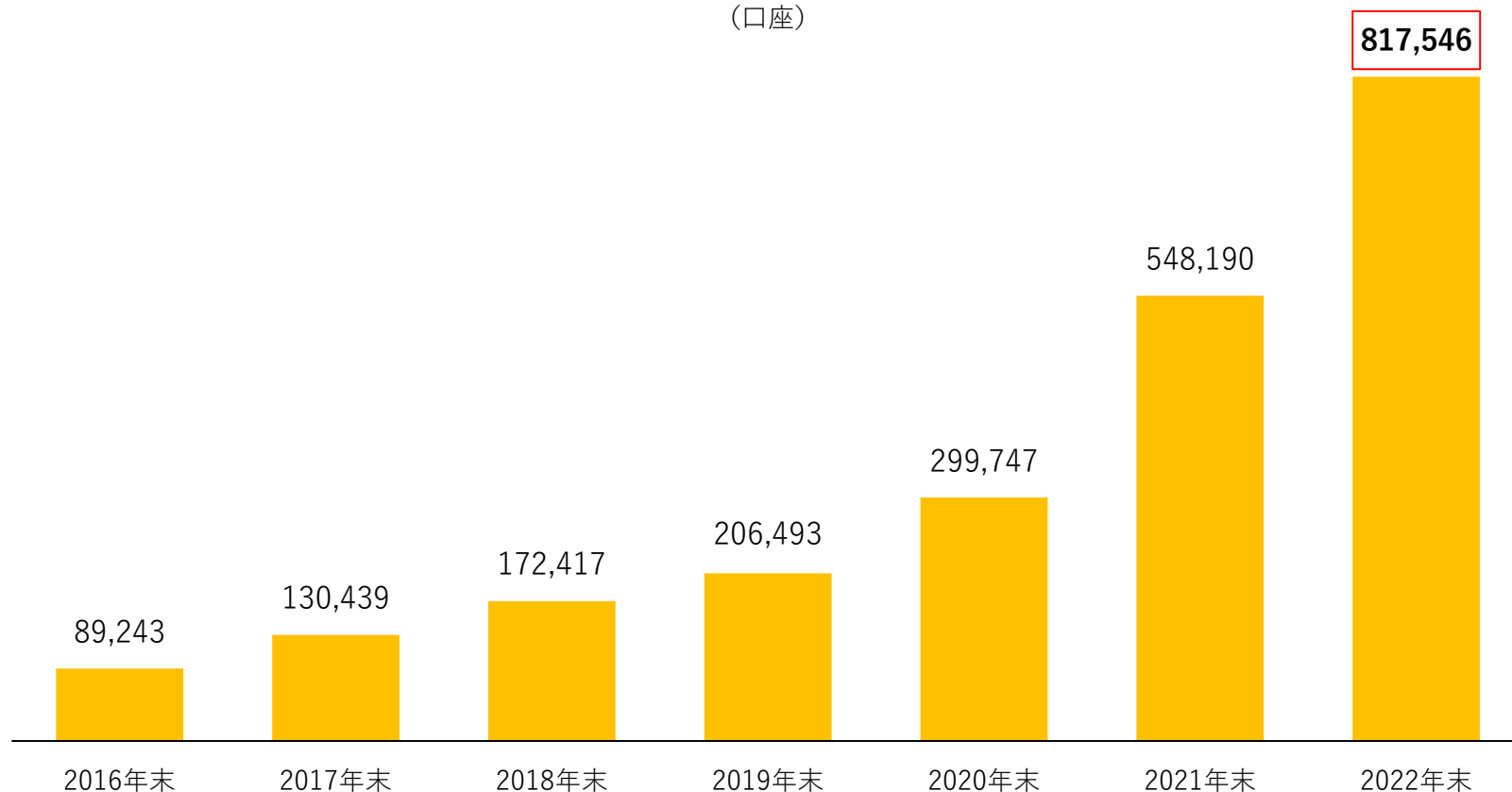
日本証券業協会

1. ジュニアNISA口座数 【全証券会社対象】

- 2022年末の証券会社のジュニアNISA口座数は817,546口座であり、2021年末と比較して、49.1%増加した。

証券会社のジュニアNISA口座数の推移

(口座)



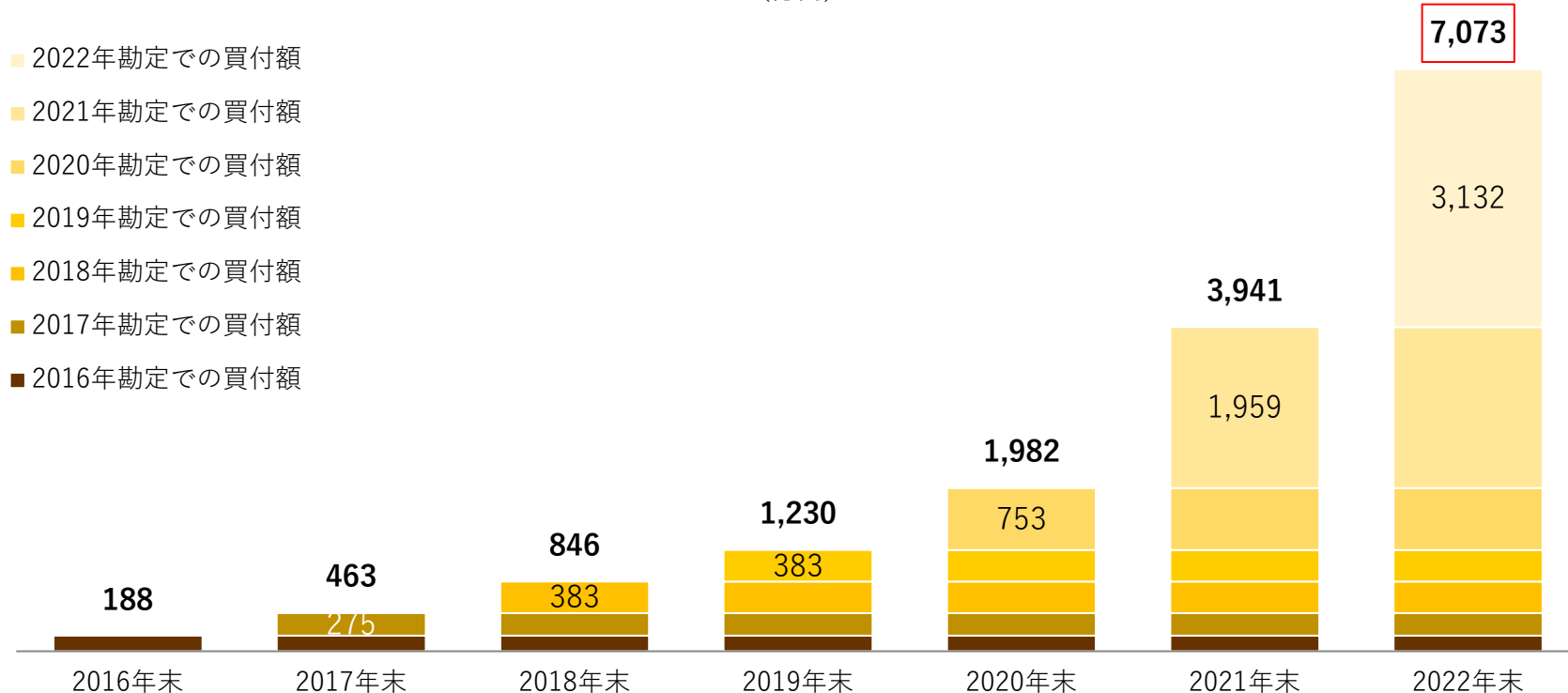
※ 増減割合は実数値を用いて算出しているため、端数処理されたグラフ中の数字を用いた計算結果とは合わない場合がある。

2. ジュニアNISA口座での買付額 【全証券会社対象】

- 2022年勘定における証券会社のジュニアNISA口座での買付額は2022年末時点で3,132億円であった。
- 累計買付額は7,073億円であり、2021年末と比較して、79.5%増加した。

証券会社のジュニアNISA口座における買付額の推移

(億円)



※ 各年勘定での買付額は、前年末までの累計買付額を引くことで求められる。

※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある

※ 2021年3月末時点の調査以降、買付額にはロールオーバーによる受入額を含めている。

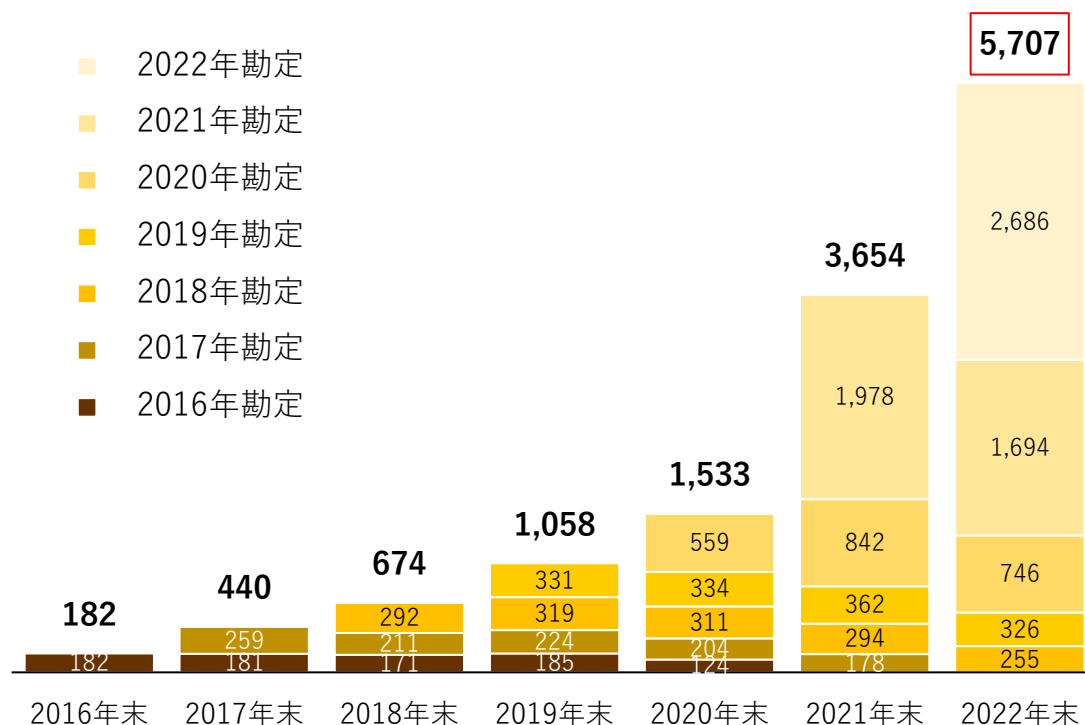
※ 増減割合は実数値を用いて算出しているため、端数処理されたグラフ中の数字を用いた計算結果とは合わない場合がある。

3. ジュニアNISA口座残高の推移 【全証券会社対象】

- 2022年末時点における証券会社のジュニアNISA口座の残高は、5,707億円であった。

証券会社のジュニアNISA口座残高の推移

(億円)



※ 2016年、2017年及び2018年勘定の非課税保有期間はそれぞれ2020年末、2021年末及び2022年末で終了している。

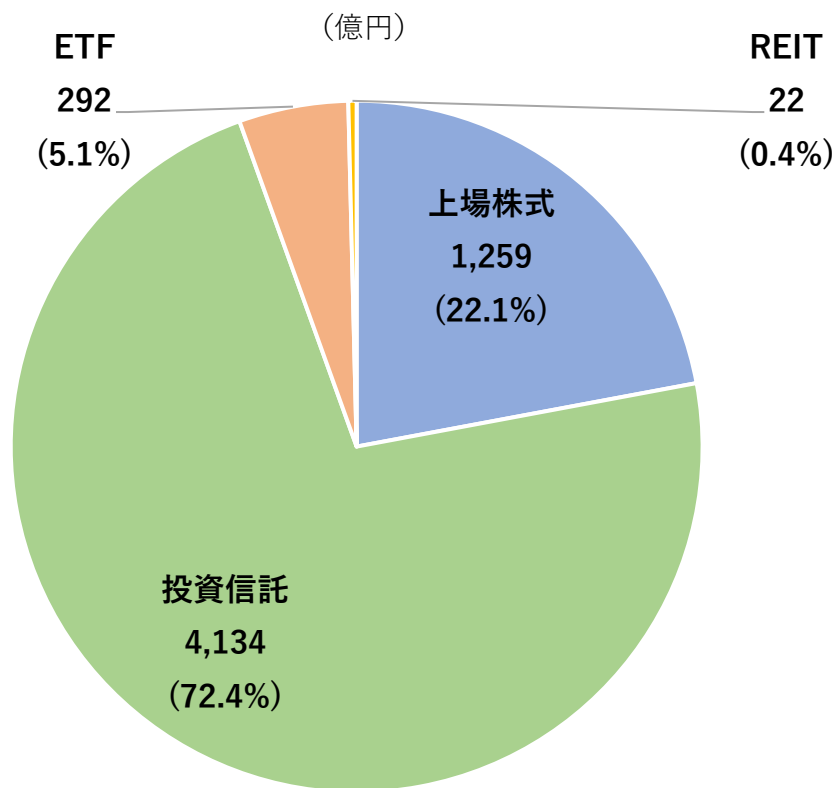
※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。

※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。

4. ジュニアNISA口座残高の内訳 【全証券会社対象】

- 2022年末時点における証券会社のジュニアNISA口座の商品別残高は、投資信託が4,134億円で、全体の72.4%を占めた。

証券会社のジュニアNISA口座の商品別残高
(2022年末時点)



※ 残高は、各時点の時価ベースで算出している。
※ 端数処理（四捨五入）の関係で、総額と内訳が一致しない場合がある。